宇和島市立吉田病院

第5回 病院機能等改編計画策定委員会

2018年12月19日



- 1. 前回の振り返り
- 2. 吉田病院における将来の病床機能
- 3. 病床再編後の当院イメージ



■病床再編パターン(案)

| 現状 | |
|----------------|-----|
| 地域一般入院基本料2 | 40床 |
| 地域包括ケア入院医療管理料2 | 12床 |
| 療養病棟入院基本料2 | 48床 |

ダウンサイジングに伴う前提条件

- ✓耐震基準を考慮し、新館のみを使用する
- ✓2階の手術室、中央材料室は縮小する
- ✓2階の吹き抜けは寒ぎ、病室として改築する
- ✔2階に機能訓練室、厨房を移動する可能性を考慮
- ✔重症度、医療看護必要度の対象患者割合は平成29年度実績で24.5%。地域包括ケア入院医療管理料の病床は20~24床が目安
- ✔医療区分2・3患者の平成29年度の1日平均入院患者数は24床。施設基準を考慮すると、療養病棟入院基本料の病床数は28~30床が目安
- ✓看護師の定年退職に伴う自然減に合わせてダウンサイジングを進めていく。
- ✔定年退職者の増加率がピークに達する2025年をシミュレーション対象年として設定

1床当たり床面積を考慮し、2階12床~32床、3階48床の合計60~80床の範囲で試算する



想定される課題

- ✓在宅医療への取組みが必要
- ✓医療が必要な患者さんの新規入院増加と医療の必要性が低い患者さんの退院先の確保が必要
- ✔入院に対する病棟運用が大変になる

急性期パターン

想定される課題

- ✔入院期間が短くなる
- ✓入院期間が短くなるため、新しい入院患者さんを 増やさなければならない
- ✓重たい医療が必要となる患者さんが減る可能性がある
- ✔在宅医療への取組みが必要
- ✓看護師の増員が必要
- ✔ 入院に対する病棟運用が大変になる

回復期パターンA

想定される課題

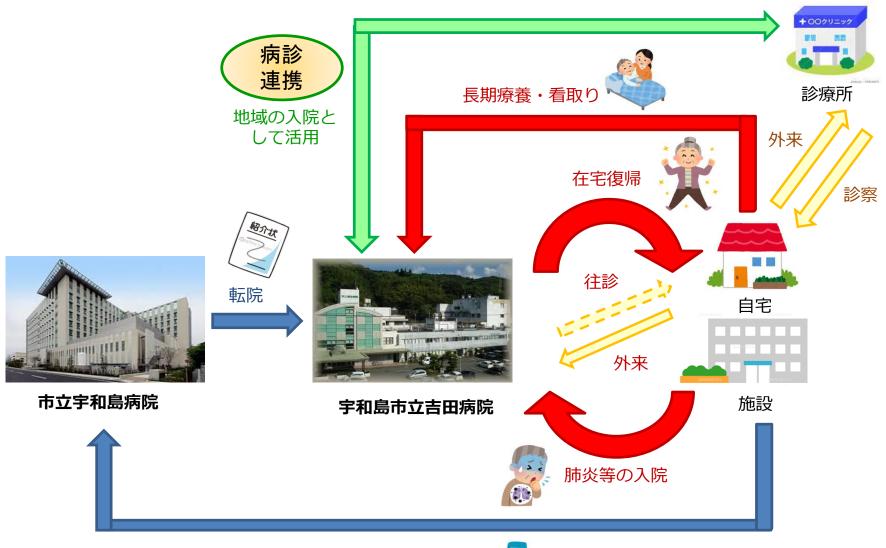
- ✓重たい医療が必要となる患者さんが減る可能性がある。
- ✔自宅や施設に帰るために連携する医療 関や 施設が必要
- ✓医療が必要な患者さんの新規入院増加と医療の必要性が低い患者さんの退院先の確保が必要

回復期パターンB

想定される課題

✔入院に対する病棟運用が大変になる





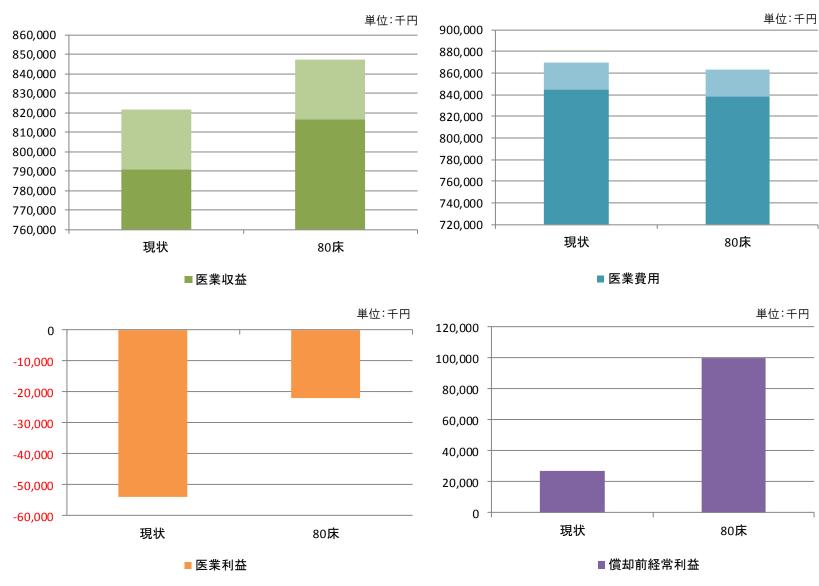
高度な検査・手術等の入院





【慢性期機能】 【慢性期機能】 長期療養が 長期療養 必要な地域の 3 F 患者さん向け 患者さん向けの の病床 病床 【回復期機能】 【回復期 医療が必要かつ 機能】 【急性期機能】 外来 在宅復帰を 在宅復帰を 医療が必要な 2 F (歯科・眼科・ 目指す 目指す地域の 患者さん 耳鼻咽喉科) 患者さん 患者さん 向けの病床 向けの病床 向けの病床 外来 外来 (内科·外科· 1 F (内科・外科・ 歯科·眼科· 皮ふ科) 耳鼻咽喉科• 皮ふ科・歯科) 新館 中館 新館 旧館

■回復期パターンB収支比較概観



宇和島市立吉田病院

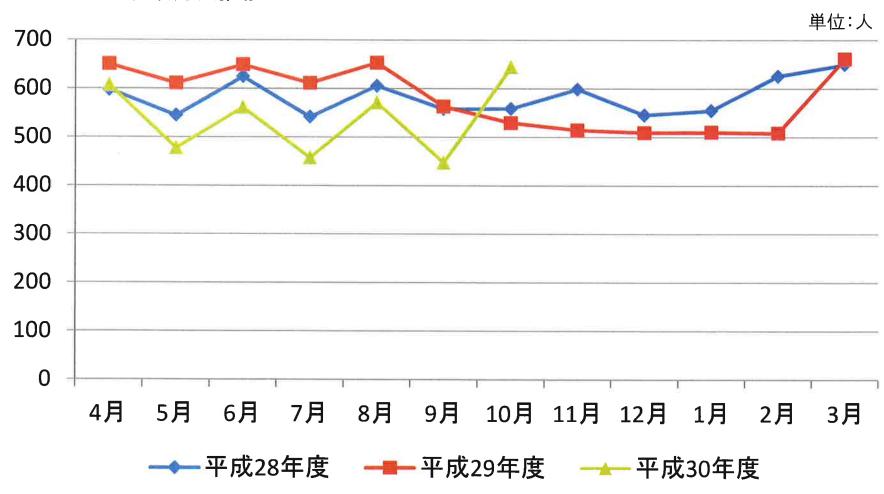
第5回 病院機能等改編計画策定委員会 (歯科について)

2018年12月19日

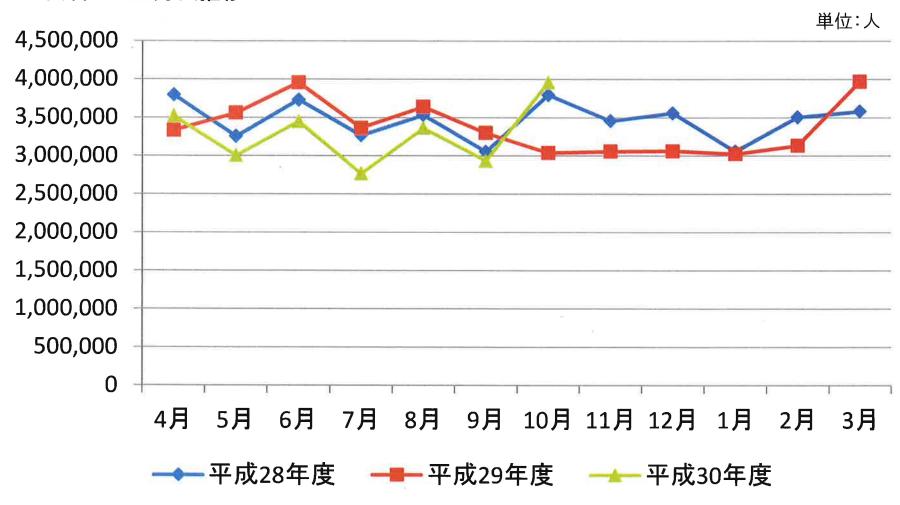


1. 歯科部門の現状

■歯科 患者数月次推移

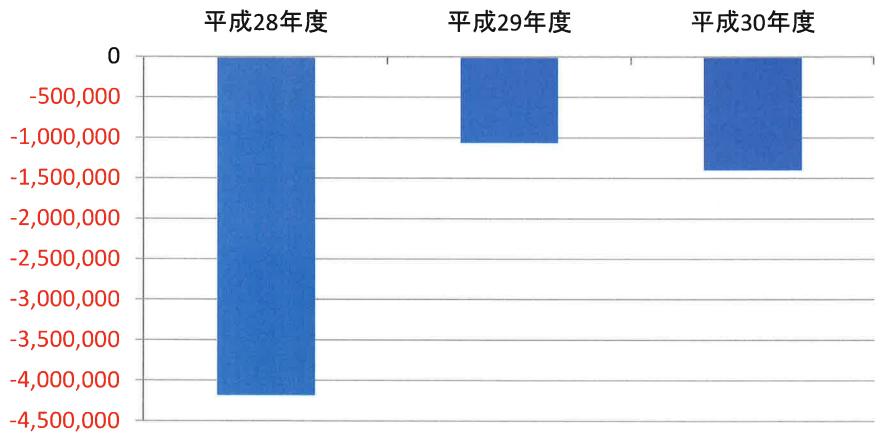


■歯科 収益月次推移



■歯科診療の利益

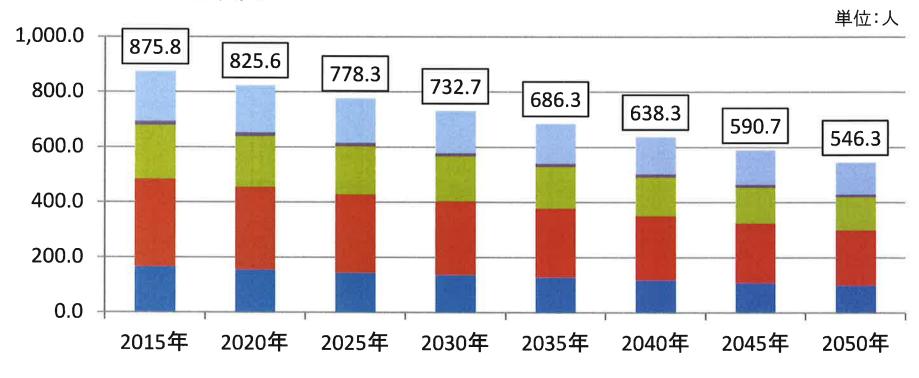




※平成30年度については、4月~10月の合計値

2. 外部環境の確認

■歯科将来推計患者数推移



- ■う蝕
- ■その他の歯及び歯の支持組織の障害
- ■その他の口腔, 唾液腺及び顎の疾患
- ■歯の補てつ

- ■歯肉炎及び歯周疾患
- ■口内炎及び関連疾患
- ■歯科診療所の外因による損傷

厚生労働省:「患者調査(平成26年度):推計患者数(患者住所地),性・年齢階級×傷病小分類×入院ー外来・都道府県別(外来)」および国立人口問題研究所「将来の男女5歳階級別推計人口(愛媛県宇和島市)」にて算出

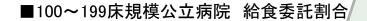
宇和島市立吉田病院

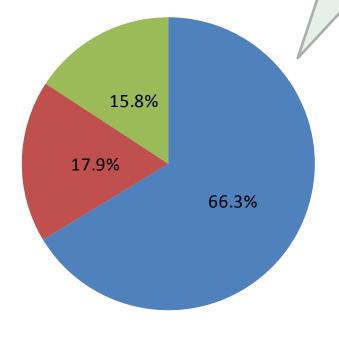
第5回 病院機能等改編計画策定委員会 (給食について)

2018年12月19日



同規模公立病院の 84.2%が給食業務 を外部委託している 100床あたり給食費用を比較すると外部委託した場合、費用が抑えられる可能性がある





■全部委託 ■一部委託 ■委託なし

